



ちば ごろう  
千葉悟郎  
(市民クラブ)

- 介護施設の介護状況調査は
- 市道の通行危険箇所の対応策は

**質問** 奥州市の人口のうち65歳以上の高齢者が約30%であるが、高齢者と言われても、まだまだ元気な人が多くいる。反面、他人の手を借りないと日常生活を送れない高齢者も増えて来ている。市内には特別養護老人ホームやデイサービス、グループホーム等、高齢者等の介護施設や介護サービス事業所がある。施設・事業所数と入居者や利用者の不満や不安等を聞き取る介護相談員は何名いるか。

**市長** 市内には154事業所があり、介護相談員2名が毎月事業所を訪問し、利用者と面談し、要望等の聞き取りをして施設に報告して改善を求めるなどの橋渡し役をしている。

**質問** 施設や事業所に対して実地指導する県や市に担当職員が配置されている。また介護相談員もいるが、施設や事業所の訪問の際、事前に予告しての訪問では、具体的な介護の実態が把握できないと思うが。

**市長** 施設や事業所でどのような介護が行なわれているか、具体的に知るために県や関係機関と話し合い、適切な対策を考え

い。

**市長** 「ラインの引き方」で、少しでも人身事故が少なくなるよう努力しているが、提案の「ラインの引き方」を検討してみたい。

**質問** 横断歩道での事故が多発しているが、横断歩道の前方のライン引きに工夫して、ドライバーの視覚に「車を止める」「徐行する」という意識を持たせる手立てを提案する。また狭い通学路等でセンター・ラインを引けない道路は、車がセンターを走るような「ラインの引き方」をして歩道を確保できるようにしては。



市内の危険な横断歩道



あべ かよこ  
阿部加代子  
(公明党)

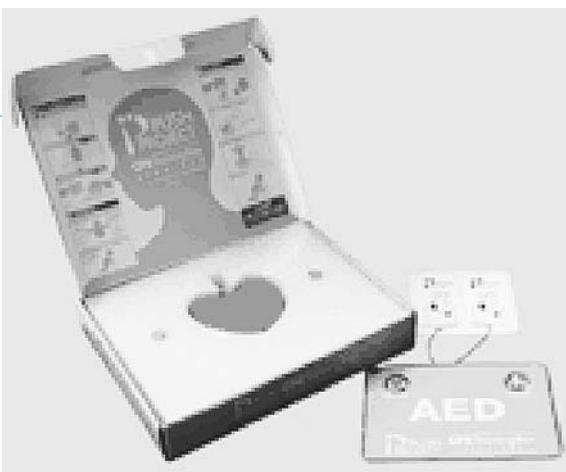
- 幼児期の保育、教育の新制度移行への準備は
- ジュニア救命サポーターの養成への環境整備を

**質問** 窓口の一本化と移行準備のため来年4月から子ども・家庭課と教育委員会学校教育課の一部を合せて準備組織とし、関連部署の協力も得ながら進め担当窓口で相談に応じる。

**市長** 今年度「ジュニア救命サポーターの養成」で、少

な準備が必要であり、準備組織の立ち上げや利用者の相談体制をどのように取組むのか。

**質問** 新制度移行にあたり膨大な準備が必要であり、準備組織の立ち上げや利用者の相談体制をどのように取組むのか。



AED訓練キット

**質問** 来年度、児童生徒を対象とした「ジュニア救命サポーターの養成コース」を消防本部で創設し救命急救の普及を行なうべきだが。

**市長** 来年度、児童生徒を対象とした「ジュニア救命サポーターの養成コース」を消防本部で創設し救命急救の普及を行なうべきでは。